



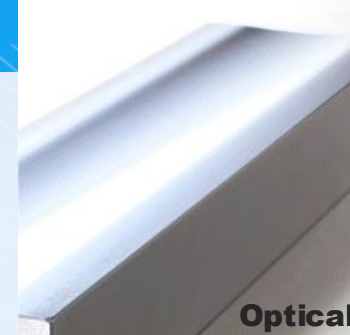
2026年6月期 第2四半期

決算説明資料

2026年 2月13日

証券コード 3446

株式会社ジェイテックコーポレーション
<https://j-tec.co.jp>



Optical



Device Development



Life Science



ESCO, Ltd.

01 ビジネスセグメント

02 2026/6期 2Q 業績

03 2026/6期 業績見通し

04 Innovation2030の実現に向けて

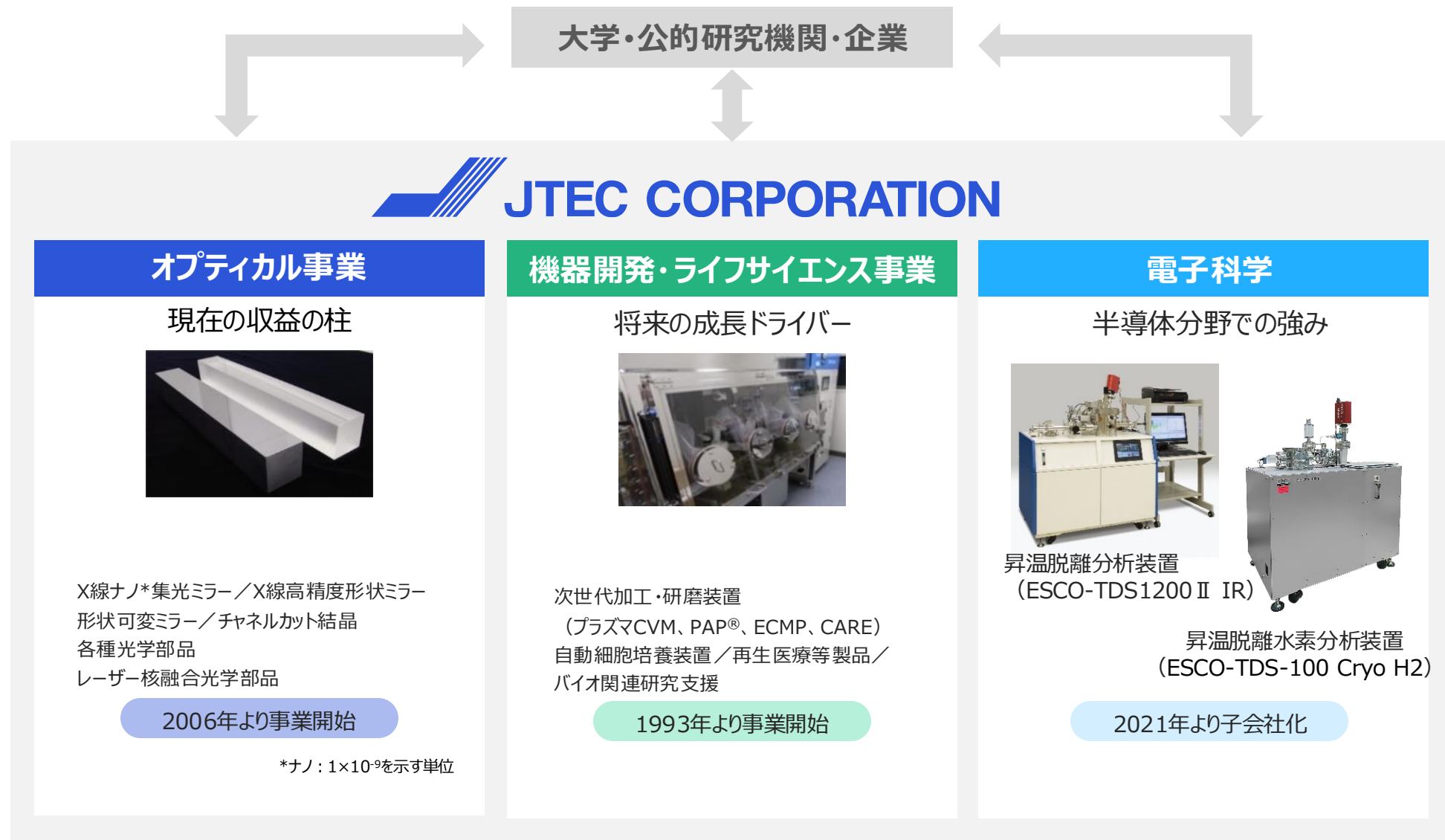
05 Appendix

05-01 会社紹介

INDEX

01

ビジネスセグメント



INDEX

02

2026/ 6 期2Q業績

2026/6期2Q 決算：損益状況

- 予算には到達していないものの、前年同期比で売上高増
- 売上総利益率は改善、光学部品の生産性向上による利益増によって赤字幅縮小

(百万円)

	損益状況（累計）						
	2025/6期 2Q	2026/6期 2Q	前年同期比		2026/6期 2Q予算 (2025/8/13)	予算比	
	実績	実績	増減額	増減率		増減額	増減率
売上高	564	646	81	14.5%	683	-37	-5.4%
売上総利益	326	394	67	20.8%	436	-42	-9.8%
売上総利益率	57.8%	61.0%	+3.2pts		63.9%	-2.9pts	
営業利益	-214	-193	20	—	-296	103	—
営業利益率	-37.9%	-29.9%	+8.0pts		-43.4%	+13.5pts	
経常利益	-228	-186	41	—	-298	111	—
経常利益率	-40.5%	-28.9%	+11.5pts		-43.7%	+14.8pts	
税引前利益	-228	-185	43	—	-298	113	—
当期純利益	-168	-138	30	—	-214	76	—
当期純利益率	-29.8%	-21.4%	+8.5pts		-31.4%	+10.0pts	

2026/6期2Q 決算：四半期ごとの業績推移

- 2Qは前年同期比で増収、採算の良い高精度ミラーが寄与し、売上総利益率は上昇
- 営業利益以下の利益は改善

(百万円)

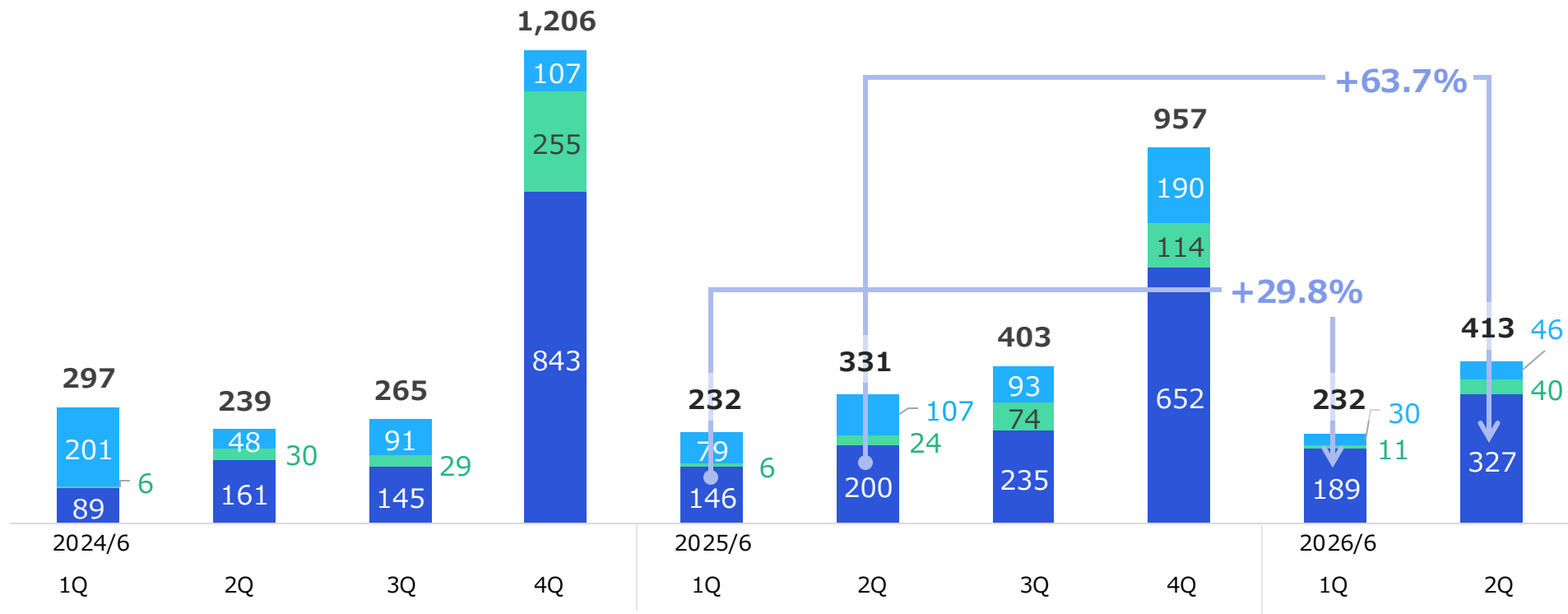
	2025/6期				2026/6期					
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	1Q/2Q比		前2Q/2Q比	
							増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	232	331	403	957	232	413	181	77.9%	81	24.7%
売上総利益	153	172	247	604	149	244	95	63.6%	71	41.4%
売上総利益率	65.9%	52.1%	61.4%	63.1%	64.3%	59.1%	-5.1pts		+7.0pts	
営業利益	-132	-81	-28	356	-172	-21	151	—	60	—
営業利益率	-57.1%	-24.5%	-7.0%	37.2%	-74.0%	-5.1%	+68.9pts		+19.4pts	
経常利益	-147	-81	-28	359	-168	-17	150	—	63	—
経常利益率	-63.3%	-24.4%	-7.2%	37.5%	-72.6%	-4.4%	+68.3pts		+20.1pts	
税引前四半期利益	-147	-81	-29	359	-167	-17	149	—	63	—
四半期利益	-105	-62	-25	254	-120	-17	103	—	45	—
四半期利益率	-45.4%	-19.0%	-6.4%	26.6%	-51.9%	-4.3%	+47.6pts		+14.7pts	

2026/6期2Q 決算：四半期ごとの業績推移 事業セグメント別

- オプティカルは生産性向上によって製造数が向上、1Q、2Qともに前年同期比で売上増
- ライフサイエンス・機器開発も前年同期の売上を上回る水準
- 電子科学はサービスと受託測定は堅調、主力装置の販売が苦戦

(百万円)

■ オプティカル ■ ライフサイエンス・機器開発 ■ 電子科学

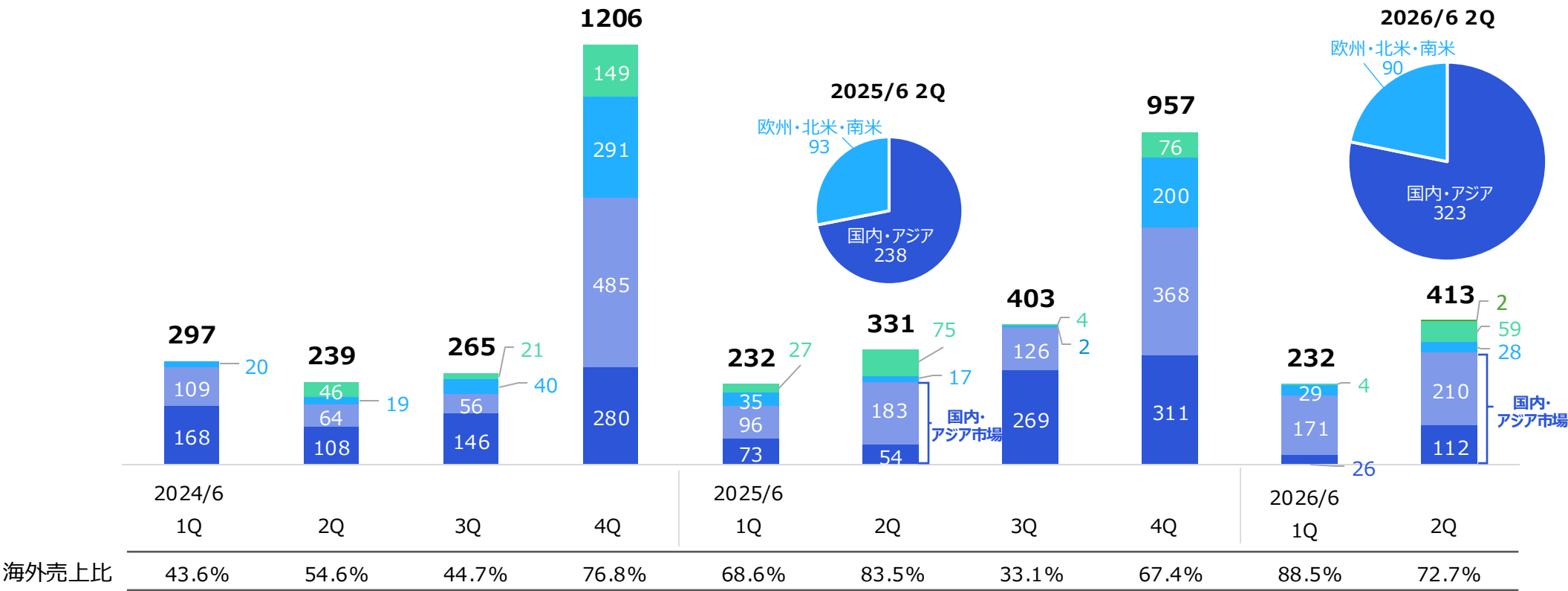


2026/6期2Q 決算：四半期ごとの業績推移 地域別

- オプティカルは国内・アジア市場、特に中国向けが前年同期比大幅増、欧州、北南米市場の売上も順調に推移

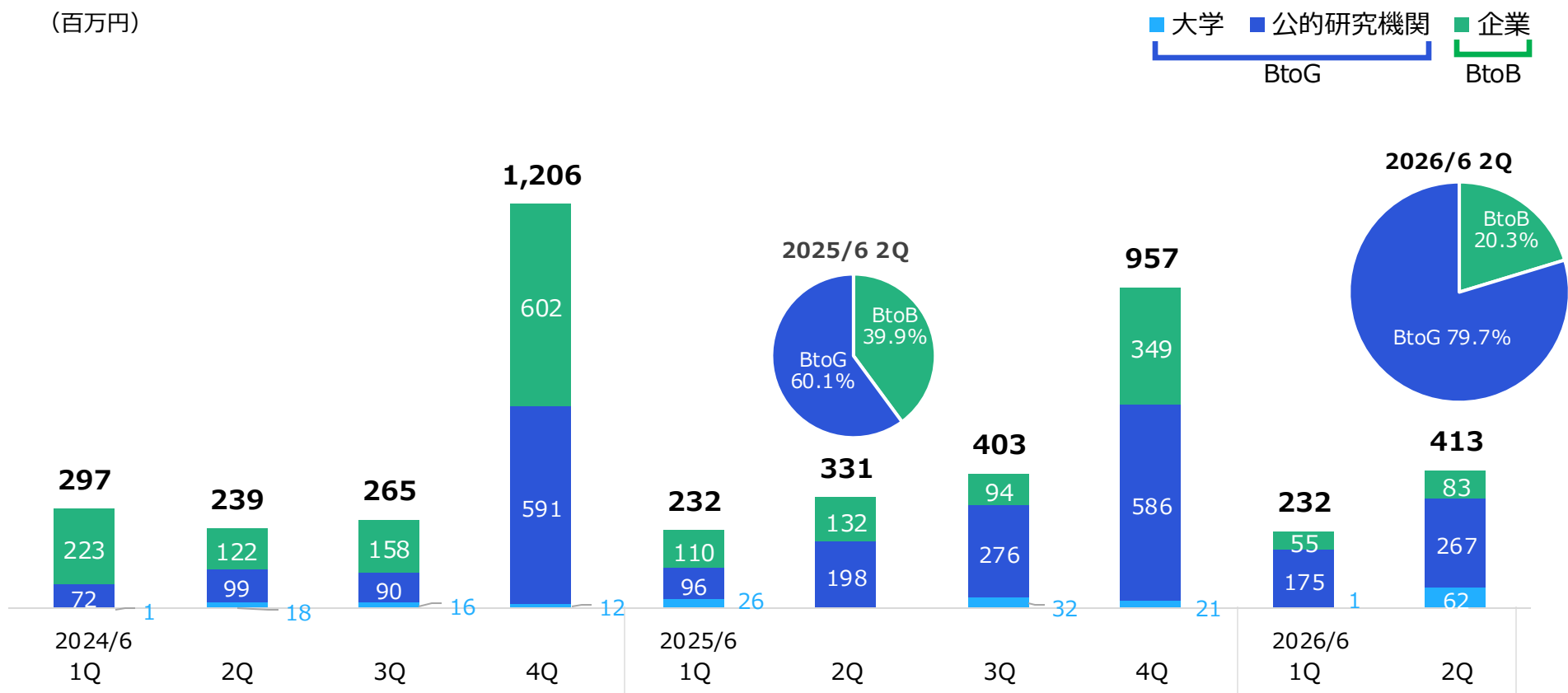
(百万円)

■ 国内 ■ アジア ■ 欧州 ■ 北米 ■ 南米



2026/6期2Q 決算：四半期ごとの業績推移 顧客属性別

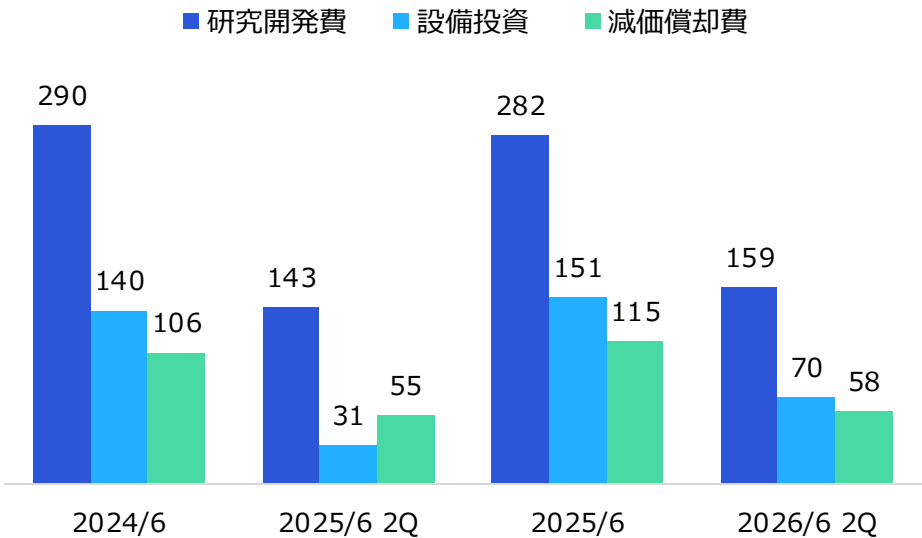
- オプティカル事業が売上の大部分を構成しており、B to G（大学＋公的研究機関）が販売先の中心



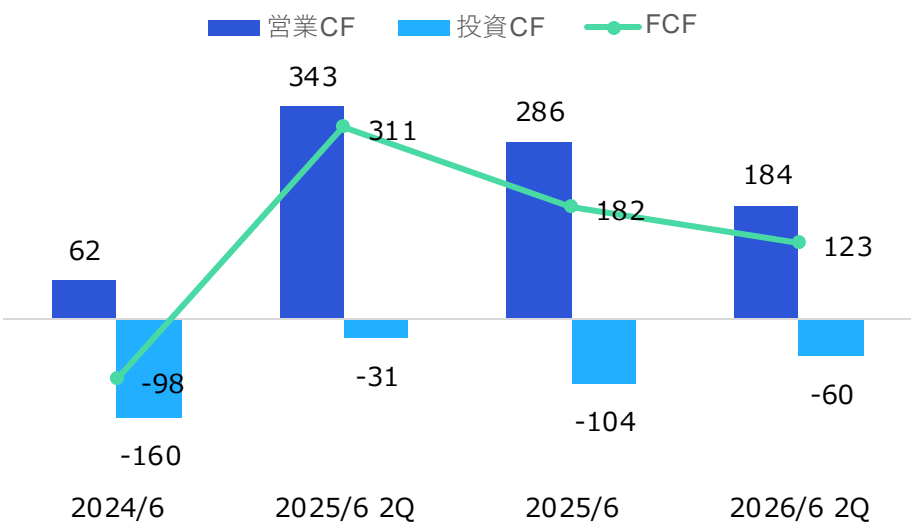
2026/6期2Q 決算：投資・キャッシュフロー

- 2Q累計の研究開発費は前年比アップ
- 売上債権の減少による収入増によってFCFはプラス

投資等 (百万円)				
	2024/6期	2025/6期2Q	2025/6月期	2026/6期2Q
研究開発費	290	143	282	159
売上高比率	14.4%	25.4%	14.7%	24.7%
設備投資	140	31	151	70
減価償却費	106	55	115	58

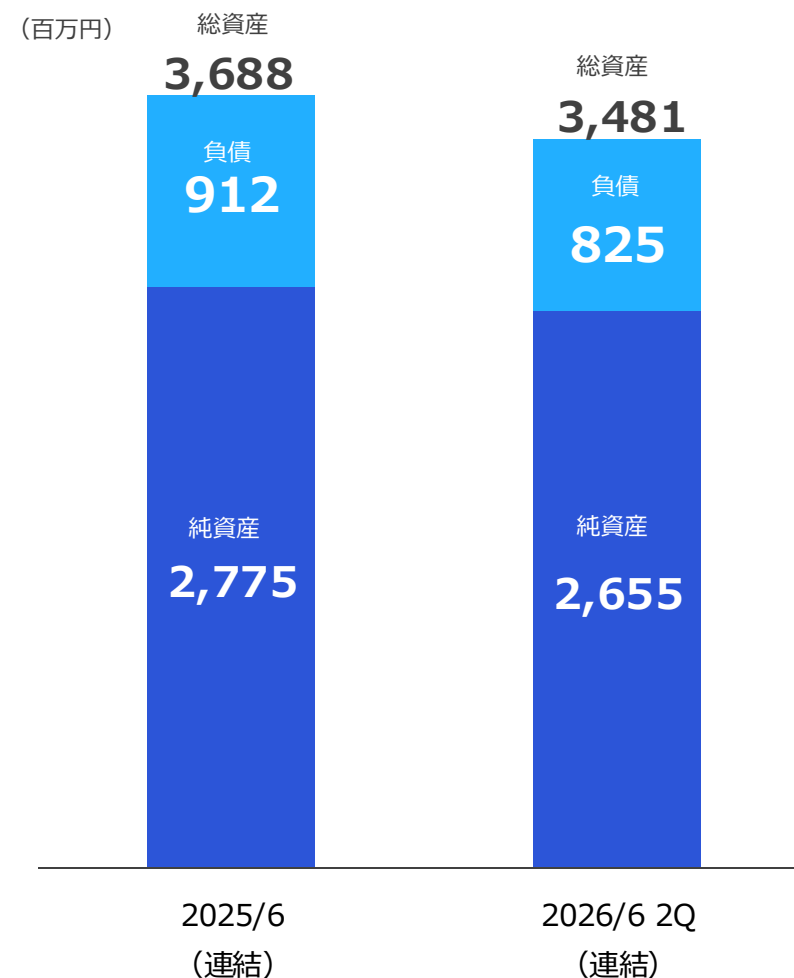


キャッシュフロー (百万円)				
	2024/6期	2025/6期2Q	2025/6期	2026/6期2Q
営業CF	62	343	286	184
投資CF	-160	-31	-104	-60
FCF	-98	311	182	123



2026/6期2Q 決算：財務の状況

		(百万円)				
		2025/6期 (連結)		2026/6期 2Q (連結)		増減
資 産 の 部	流動資産	1,939	52.6%	1,662	47.8%	-277
	(現預金)	(712)	(19.3%)	(793)	(22.8%)	(80)
	固定資産	1,748	47.4%	1,818	52.2%	70
	(有形固定資産)	(1,377)	(37.4%)	(1,388)	(39.9%)	(10)
	資産合計	3,688	100.0%	3,481	100.0%	-206
負 債 の 部	流動負債	493	13.4%	442	12.7%	-51
	固定負債	419	11.4%	383	11.0%	-35
	負債合計	912	24.7%	825	23.7%	-86
純 資 産 の 部	株主資本	2,775	75.3%	2,655	76.3%	-119
	(資本金)	(847)	(23.0%)	(856)	(24.6%)	(9)
	(資本剰余金)	(807)	(21.9%)	(816)	(23.4%)	(9)
	(利益剰余金)	(1,121)	(30.4%)	(983)	(28.3%)	(-138)
	純資産合計	2,775	75.3%	2,655	76.3%	-119
負債純資産合計		3,688	100.0%	3,481	100.0%	-206



INDEX

03

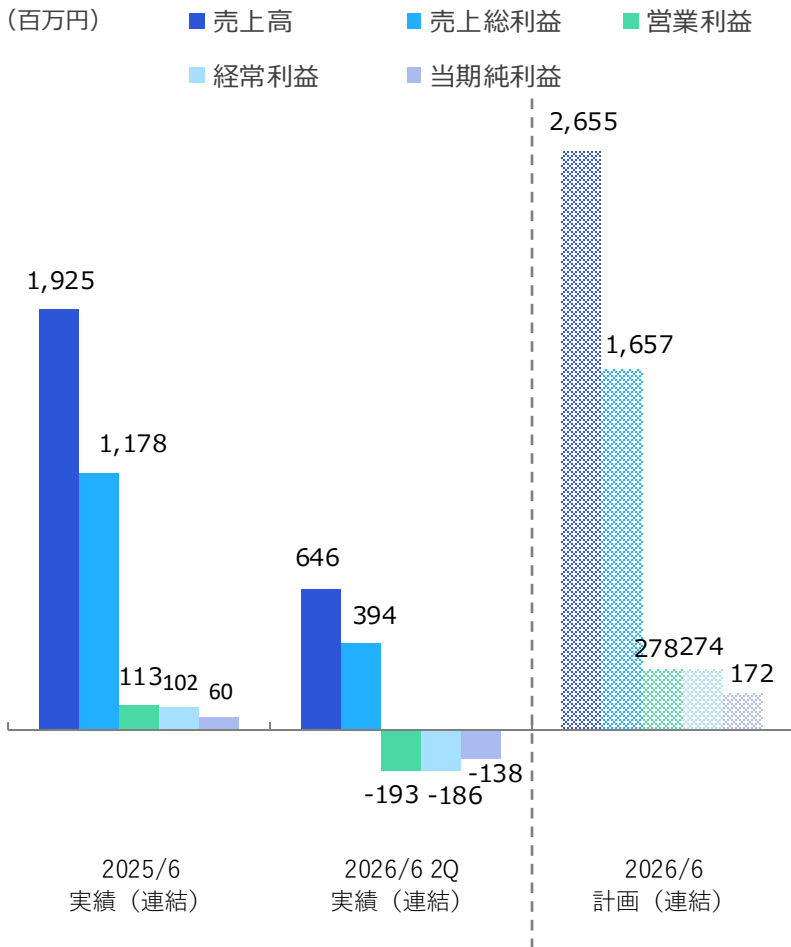
2026/ 6 期 業績見通し

2026/6期 業績見通し

- 前年比、売上高37%、売上総利益40%増を見込んでおり、増収増益の見通し
- 売上高は当初計画に沿って下期偏重の見通し
- 研究開発投資の影響で増加する販管費を吸収し、前年同期比で利益は大幅増を見込む

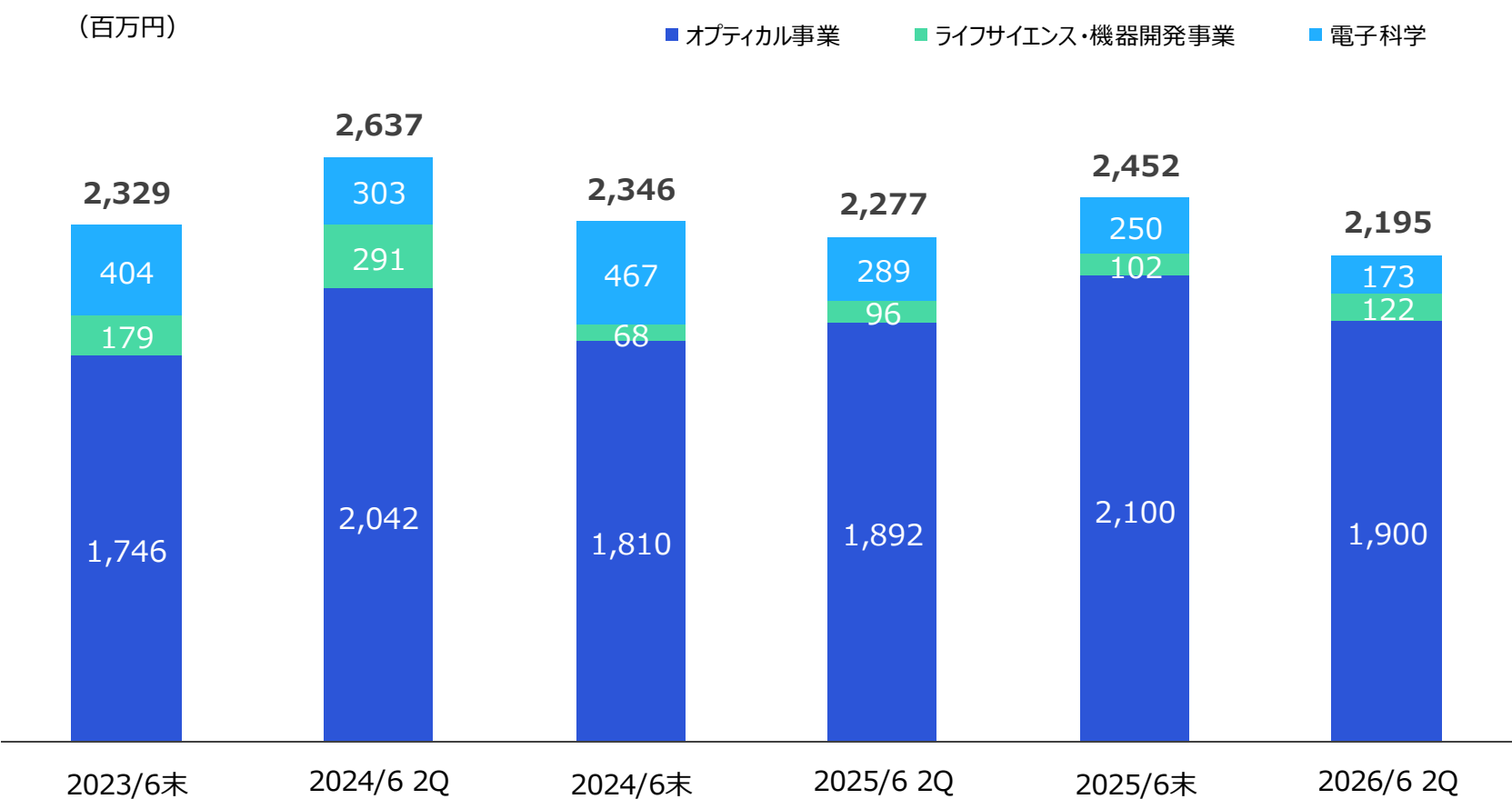
(百万円)

	2025/6期 実績 (連結)	2026/6期 2Q実績 (連結)	2026/6期 計画 (連結)	進捗率
売上高	1,925	646	2,655	24.3%
売上総利益	1,178	394	1,657	23.8%
売上総利益率	61.2%	61.0%	62.4%	
営業利益	113	-193	278	—
営業利益率	5.9%	-29.9%	10.5%	
経常利益	102	-186	274	—
経常利益率	5.3%	-28.9%	10.3%	
当期純利益	60	-138	172	—
当期純利益率	3.1%	-21.4%	6.5%	



2026/6期2Q 受注残高の状況

- アジア市場の旺盛な受注を背景にオプティカルの更なる受注積み上げと次世代半導体向け装置の受注に期待



※受注確定分と受注確度の高い案件の合計

2026/6期 業績見通し：セグメント別見通しのサマリー、計画のポイント

(百万円)

		2026/6期 2Q実績 (連結)	2026/6期 計画 (連結)	進捗率
光学デバイス	売上高	517	1,650	31.3%
	セグメント利益	184	725	25.5%
	セグメント利益率	35.8%	44.0%	
精密機械	売上高	22	404	5.6%
	セグメント利益	-39	48	—
	セグメント利益率	—	12.0%	
生命科学	売上高	29	91	32.2%
	セグメント利益	-23	3	—
	セグメント利益率	—	4.3%	
電子デバイス	売上高	76	510	15.1%
	セグメント利益	-70	45	—
	セグメント利益率	—	9.0%	
調整額	売上高	—	—	
	セグメント利益	-244	-544	
合計	売上高	646	2,655	24.3%
	営業利益	-193	278	—
	営業利益率	—	10.5%	

光学デバイス事業

- アジア市場（中国、台湾、韓国）の受注が旺盛
- 日本や欧米にある複数の先端放射光施設がアップグレード進行中
- 半導体向け高精度光学部品の受注数増加
半導体・分析装置向け高機能レンズ（B to B）の受注が増加

精密機械事業

- プラズマCVM：水晶デバイス用ウェハ加工装置の小型機から大型自動機への展開と潜在市場の掘り起こし
- PAP®：プラズマ援用研磨法によるダイヤモンド基板の高速・高精度加工プロセスの確立と装置化の加速によるダイヤモンド加工市場への参入
- ECMP：イオン伝導性物質を用いた電気化学機械研磨法によるSiCウェハの高速研磨プロセスの確立とその装置化
- CARE：研磨パッドの長寿命化による装置の実用化の検討、早期に商品化へ
データセンター（AIサーバー）の需要増による、水晶デバイス（発信器）向けプラズマCVM、ダイヤモンド加工向けのPAP®引き合いが急増

生命科学事業

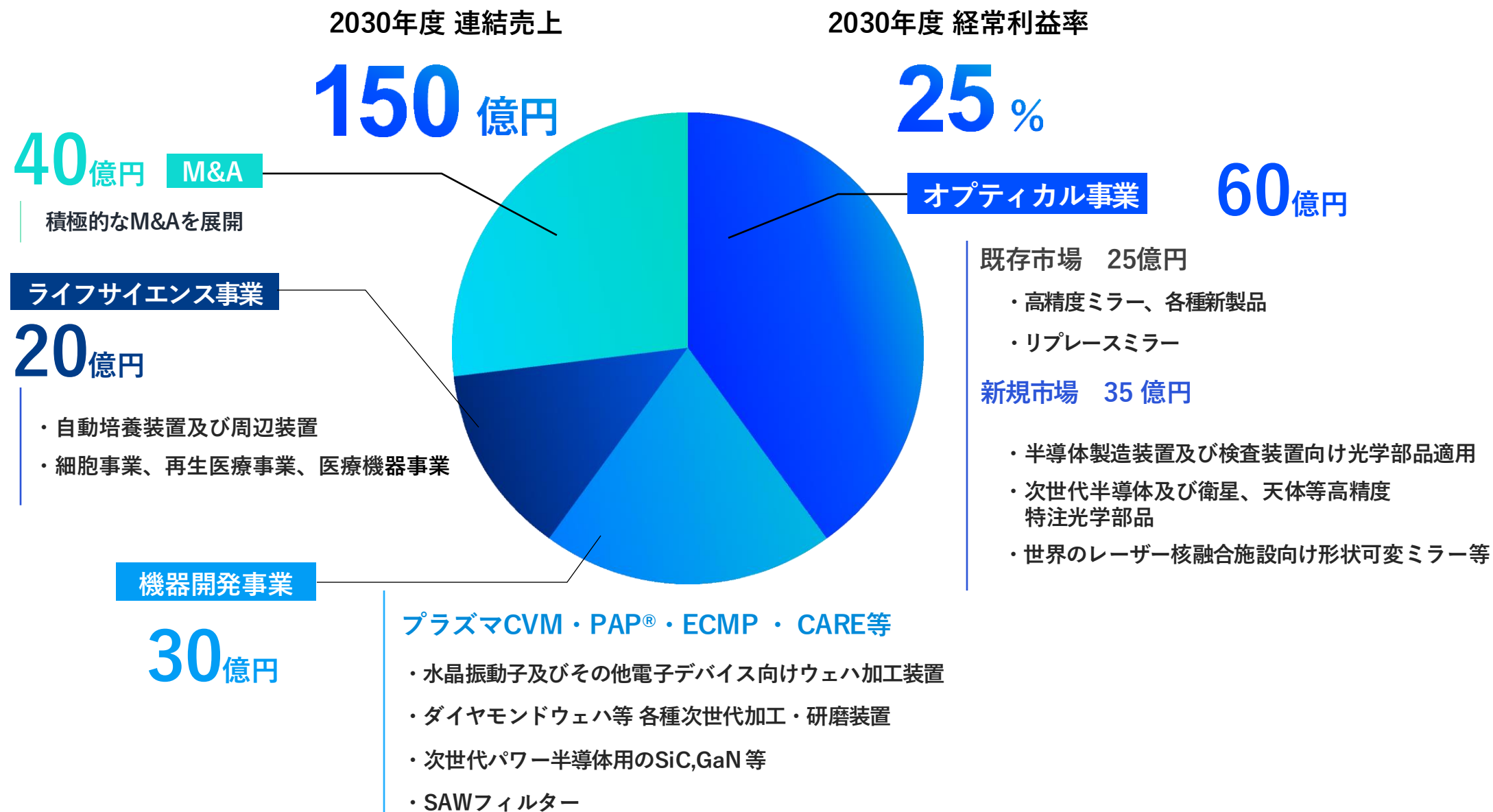
- 再生医療・創薬分野における働き方改革に寄与する「自動細胞培養装置」の市場拡大と「大型細胞培養自動化システム」の積極的な市場展開
複数の研究機関と製品開発に着手
- 研究機関や他企業との共同研究により開発に成功した幹細胞治療向けの幹細胞分離装置による脳梗塞治療および認知症治療（自由診療）への展開
- 独自の培養技術「CELLFLOAT」を用いた軟骨の再生医療は、現在東京大学等と研究開発を進め、2025年度から医師主導治験を開始**

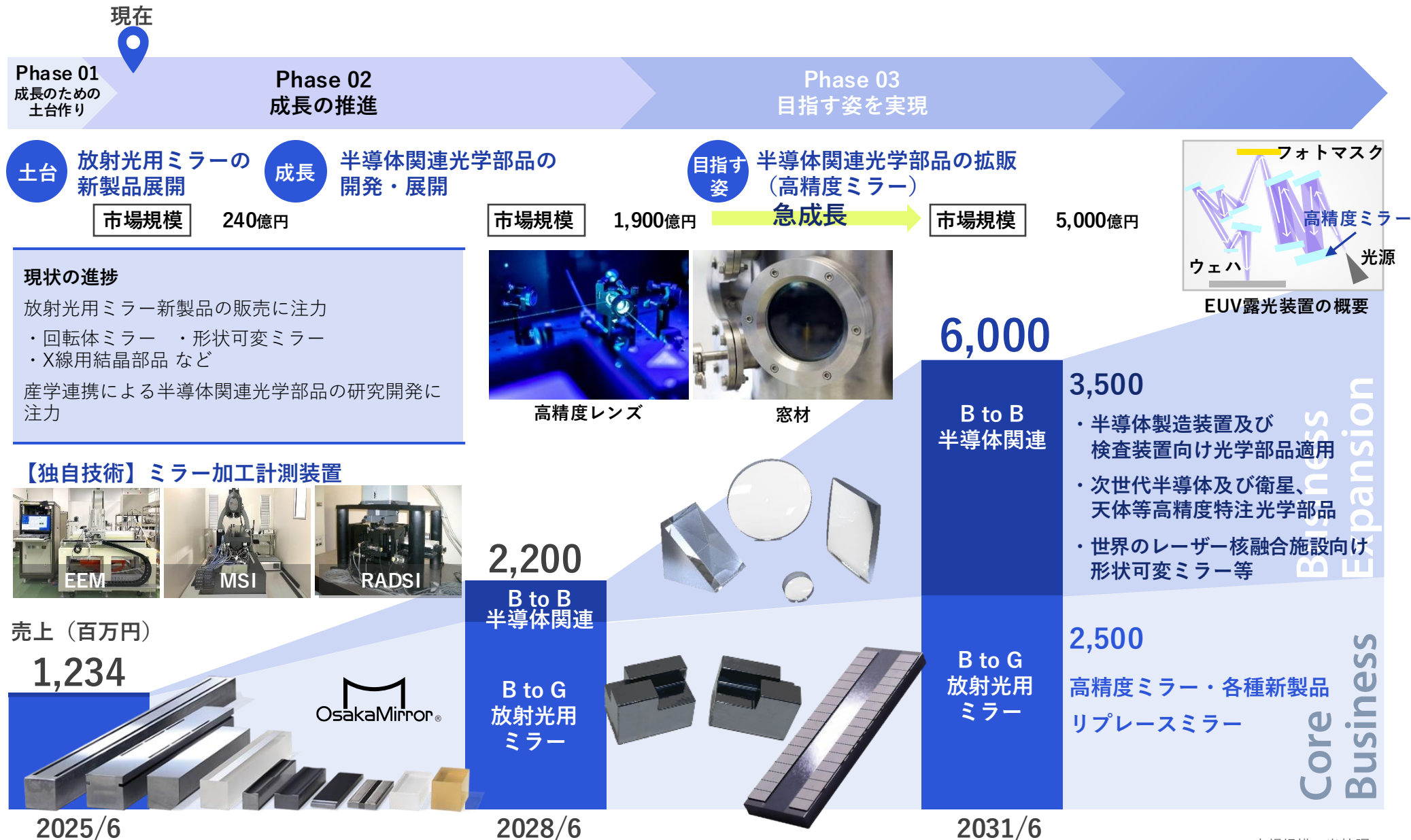
電子デバイス事業

- 中国、米国、欧州の新市場開拓を行い、事業の拡大を図る
- AI技術に必要な、高度な半導体デバイスの生産・開発に対応した赤外線加熱型昇温脱離分析装置「ESCO-TDS1200 II IR」の受注が急務、今年度中に、高性能な温度測定機能を装備した新製品を販売開始
- 水素検出専用の分析装置「ESCO-TDS600 IR H2」や「ESCO-TDS-100 Cryo H2」を販売開始
- 分析業務の拡大

Innovation2030 の実現に向けて

長期成長戦略「Innovation2030」は、これまでのニッチトップ戦略で培った独自技術を、半導体分野のような大きな市場や、これから成長が見込まれる再生医療分野に適用・展開するための施策





独自の加工・研磨技術を半導体加工用装置市場へ

現在

Phase 01
成長のための
土台作り

Phase 02
成長の推進

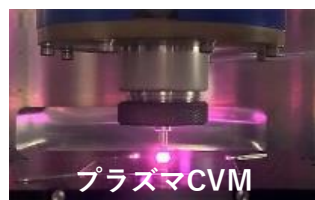
Phase 03
目指す姿を実現

土台 プラズマCVM装置、
PAP®装置、ECMP装置の
早期売上形成

成長 半導体市場へタイムリーに参入
パワー半導体基板向け
各種研磨装置の販売

目指す姿 第二の事業の柱に成長
次世代半導体や化合物半導体ウェハ向けに、
加工・研磨装置が本格導入、大きく売上貢献

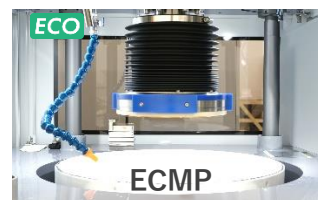
大学発の独自の精密加工・研磨技術



プラズマCVM



PAP®



ECMP



CARE

実用化を推進し、早期市場導入を目指す

現状の進捗

プラズマCVM：国内外で水晶振動子ウェハ加工装置として注力

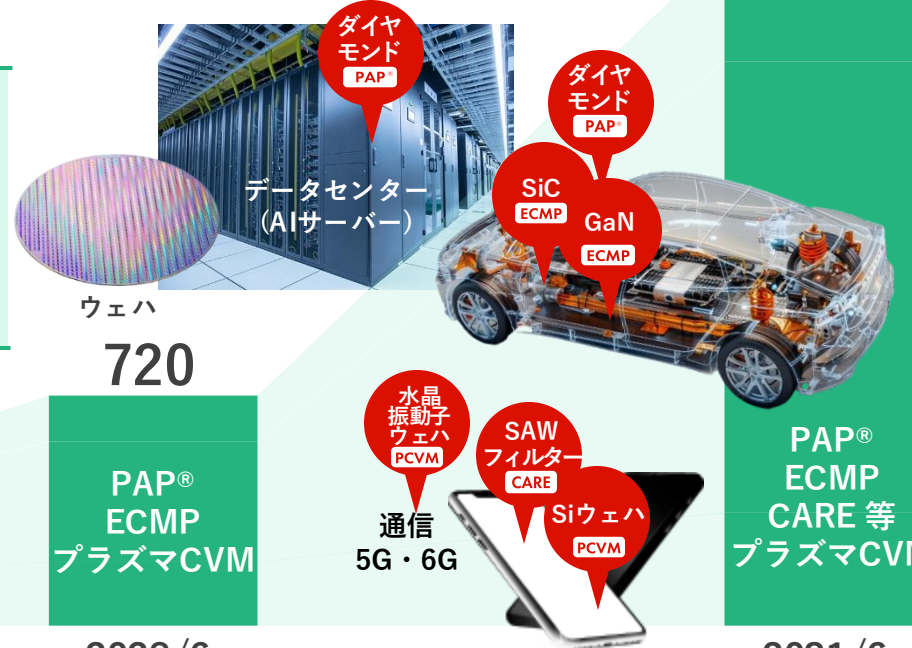
PAP®：ダイヤモンドウェハ等の研磨試作向けの装置として複数納入

ECMP/CARE：半導体メーカー等からの試作評価が順調に進展

売上（百万円）

130
PAP®
プラズマCVM

2025/6

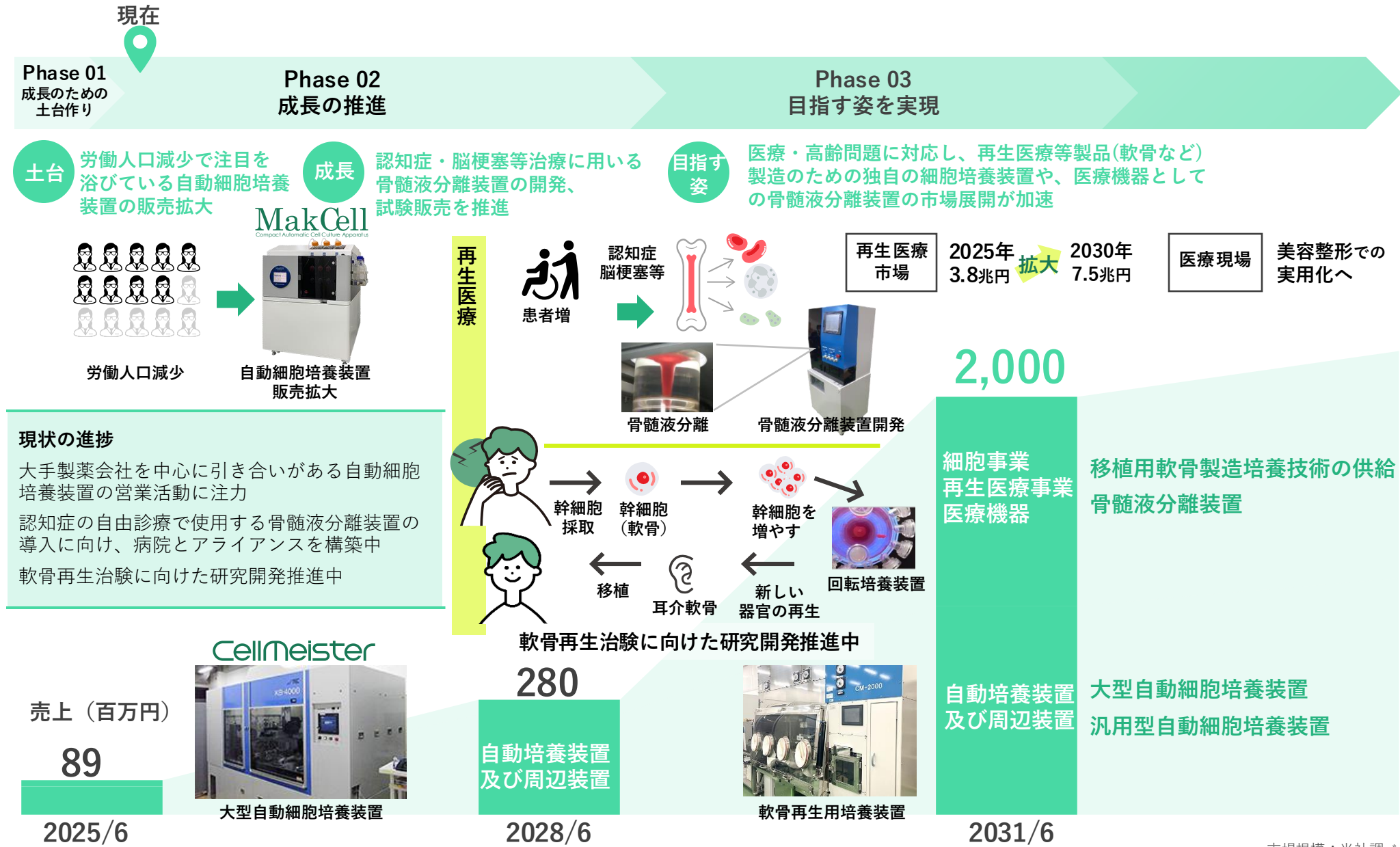


- ・水晶振動子及び
その他電子デバイス向け
ウェハ加工装置
- ・ダイヤモンドウェハ等
各種次世代加工・研磨装置
- ・次世代パワー半導体用の
SiC, GaN 等
- ・SAWフィルター

PAP®
ECMP
CARE 等
プラズマCVM

2031/6

独自の細胞培養及び分離技術により高齢化社会や人口減少に積極的に対応



シナジー効果のある企業との相乗的な成長を目指す

現在

Phase 01
成長のための
土台作り

土台

電子科学㈱の新規開拓
市場で主力製品の
販売が増えるPhase 02
成長の推進

成長

積極的なM&Aを展開
当社とのシナジーが期待できる
複数の会社のM&Aを実施Phase 03
目指す姿を実現目指す
姿当社と子会社の相補的な関係を構築し、
順次の売上拡大を実現する

現状の進捗

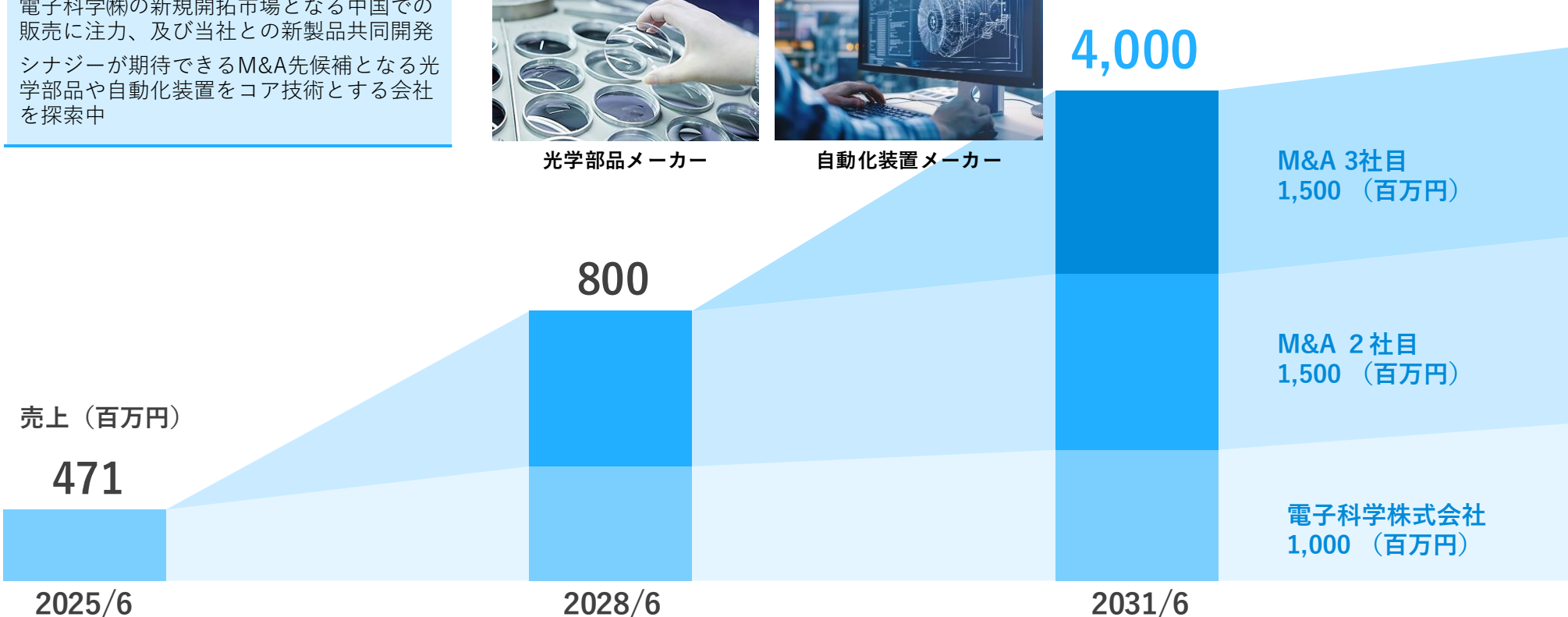
電子科学㈱の新規開拓市場となる中国での販売に注力、及び当社との新製品共同開発シナジーが期待できるM&A先候補となる光学部品や自動化装置をコア技術とする会社を探索中



光学部品メーカー

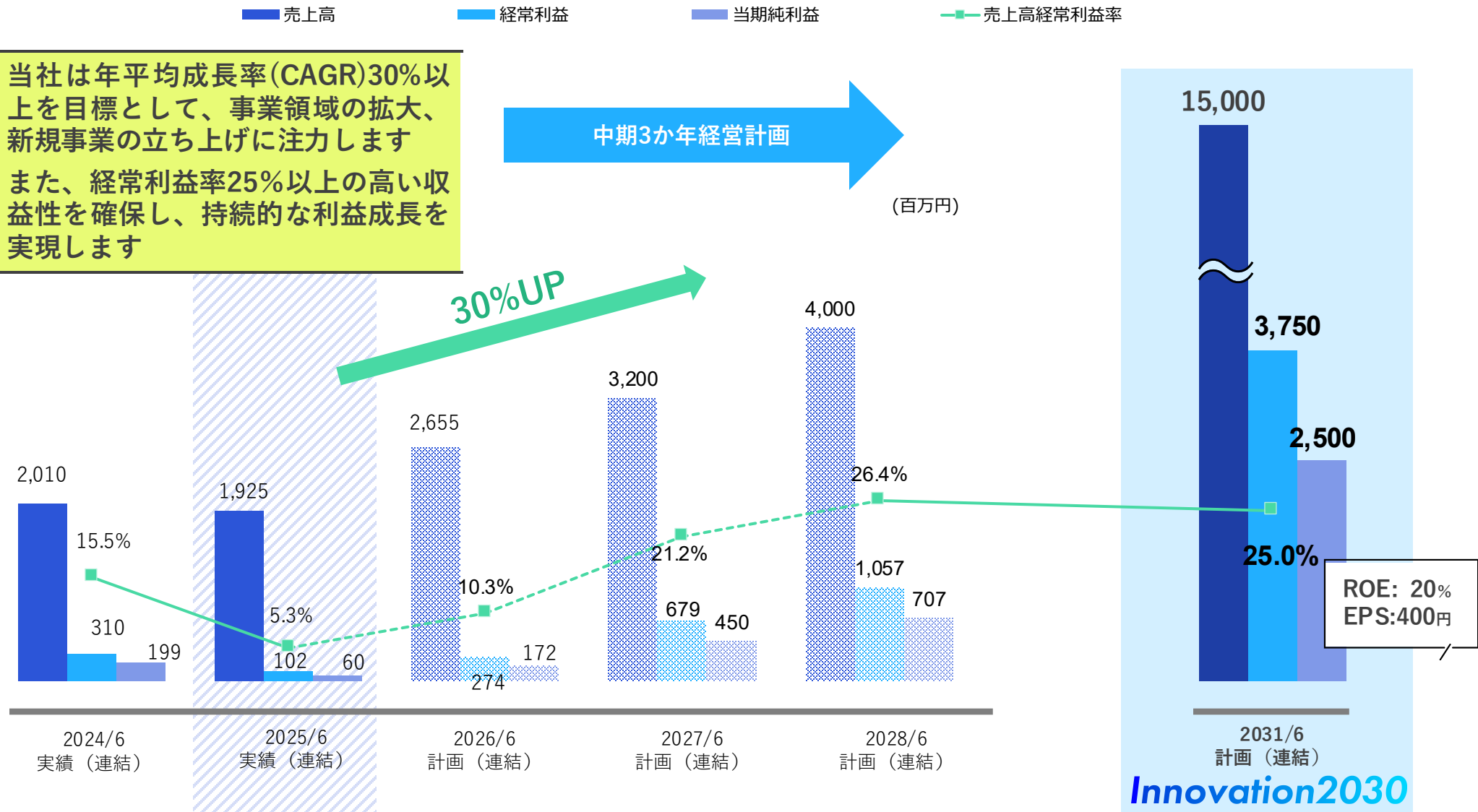


自動化装置メーカー



Innovation2030 までのマイルストーン

当社は年平均成長率(CAGR)30%以上を目標として、事業領域の拡大、新規事業の立ち上げに注力します
また、経常利益率25%以上の高い収益性を確保し、持続的な利益成長を実現します



技 術 名	技術内容	事業化状況					
		研究開発	ユーザー テスト加工	プロセス・装置確定	小型装置販売	パイロットライン用 設備販売	生産ライン用 装置販売
プラズマCVM Plasma Chemical Vaporization Machining	技術の特徴： <ul style="list-style-type: none"> ・高密度のラジカルを利用した基材表面のエッチング加工 ・高効率で歪を生じない加工 ・厚み測定器と組み合わせたNC加工により、基板平坦性(TTV)向上 被加工物： Si及びSiO ₂ (水晶、ガラス)基板						
PAP® Plasma Assisted Polishing	技術の特徴： <ul style="list-style-type: none"> ・プラズマによる基材表面の活性化現象を利用した硬質材料の高速研磨加工 ・研磨剤、スラリーを用いないドライ & クリーン加工 ECO 被加工物： ダイヤモンド(単結晶、多結晶)						
ECMP Electro-Chemical Mechanical Polishing	技術の特徴： <ul style="list-style-type: none"> ・基板表面の陽極酸化(軟質化)現象を利用した高速研磨加工 ・イオン伝導性パッドを用い、薬液(電解液)を使用しないクリーンな加工 ECO 被加工物： SiCウェハ						
CARE CAtalyst Referred Etching	技術の特徴： <ul style="list-style-type: none"> ・触媒機能を持つパッドによる原子スケールでの平坦化加工 ・加工変質層、ダメージ層のない原子レベルで欠陥のない表面を創出 ・媒体は純水のみで、研磨剤等のメディアが不要でクリーンな加工 ECO 被加工物： Si、水晶、サファイア、GaN、SiC、LT/LN等種々の半導体基板						



ご清聴ありがとうございました



JTEC CORPORATION

<https://www.j-tec.co.jp>

免責事項

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、内部・外部要因等により変動する可能性があります。当社は、本資料の情報の正確性、完全性及び実現性について、何ら表明及び保証するものではありません。



Appendix

INDEX
05-01

会社紹介

1993

大阪コンピュータ株式会社との
共同出資により、大阪府吹田市に
株式会社ジェイテックを設立

1993

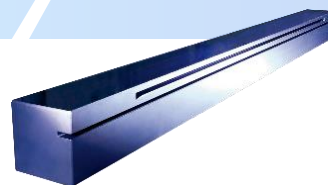


各種自動細胞培養装置の
事業開始

2004

本社を神戸市中央区へ移転

2003



放射光用高精度X線ミラーの
事業開始

2015

本社を
茨木市彩都やまがきへ移転

2016

株式会社ジェイテックコーポレーション
に商号変更

2013

2016

大阪大学内に
細胞培養センターを開設



2018

東証マザーズ市場に新規上場

2019

新社屋（本社棟および加工・計測棟）
の完成



2020

東京証券取引所市場第一部へ
市場区分を変更



次世代加工・研磨システムの事業開始
（第一弾：水晶振動子ウェハ加工システム）

2022

東京証券取引所市場第一部から
プライム市場へ移行

2021

電子科学株式会社
を子会社化



2023

大阪大学と
共同研究部門を設立

2025

兵庫県立大学との
包括連携協定締結

2022

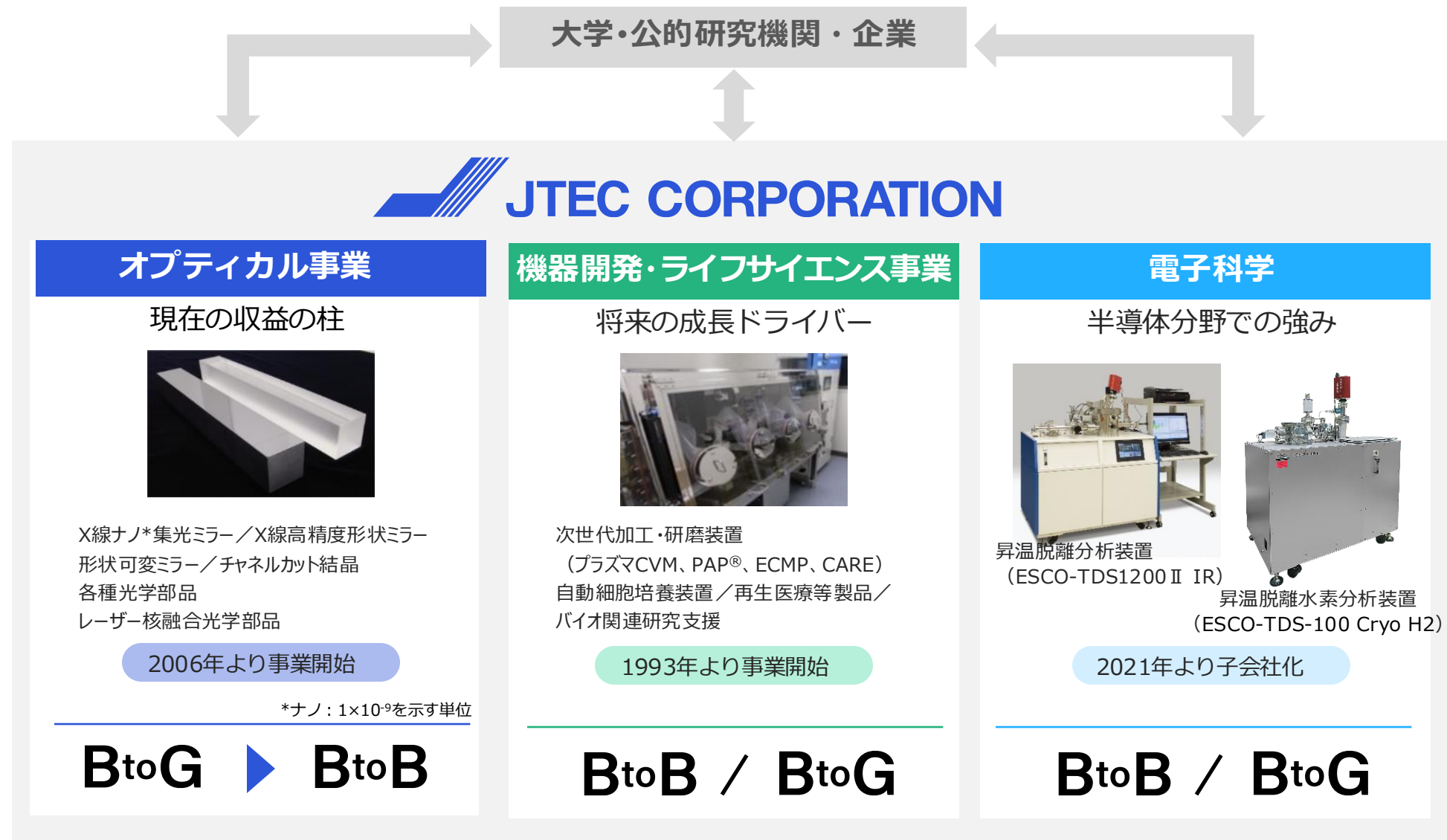
栃木生産技術センターを開設



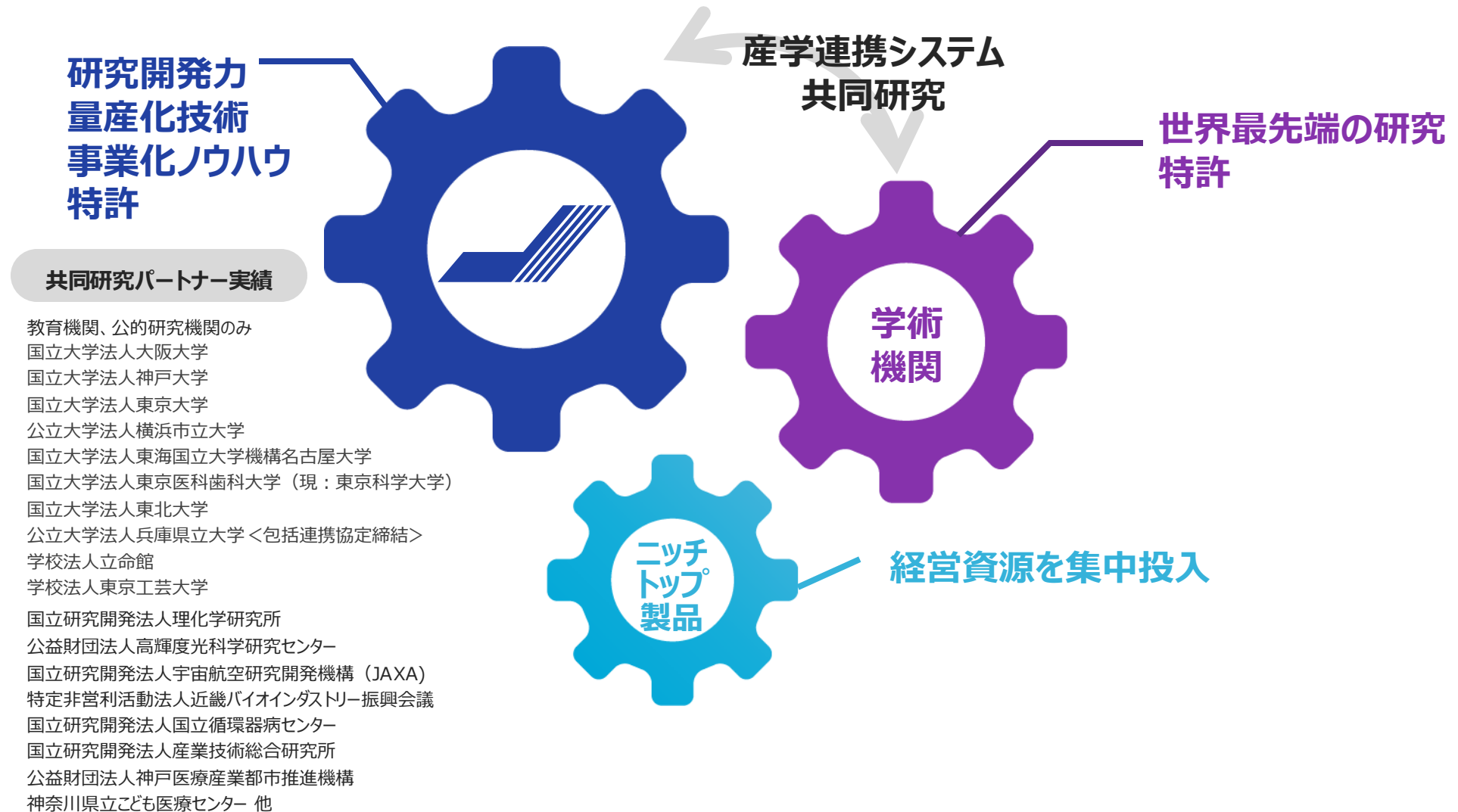
2025

東京証券取引所スタンダー
ド市場へ市場区分を変更

2023



- 世界最先端となるニッチトップ製品の量産化、事業化で付加価値創出

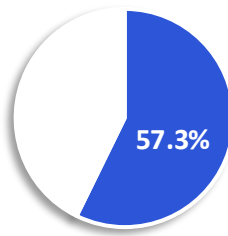


世界最先端技術を欲する顧客（企業、大学・研究機関）

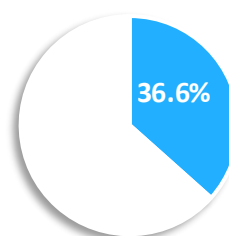
2018年度以降 4 年間の売上数量と当社の超精密加工・計測技術を適用したミラーの数量

売上全数量	521	(本)
当社の技術を適用したミラーの本数	521	
当社の技術を適用した高精度ミラーの本数	333	

ジェイテックコーポレーションの
ミラー市場シェア



ミラー市場における
高精度ミラーの比率



ジェイテックコーポレーションの
高精度ミラー比率



ジェイテックコーポレーション市場調査結果

- ・ 当社が把握している稼働中の放射光施設が世界に約50ヶ所あり、ビームライン数は平均約20本。各ビームラインで使用するミラー本数は通常7本程度なので、使われるミラーの総本数を約7000本と見積る。通常4年間で13%程度が新設またはリプレイスされるため、4年間のそれら総必要本数は約910本と考えられる。
- ・ 高精度ミラーの総本数を333本と見積るのは、全世界の高精度ミラーの入札に参加している当社が全て落れていることを根拠としている。

高精度ミラーの定義

以下の4項目のいずれかを満たす

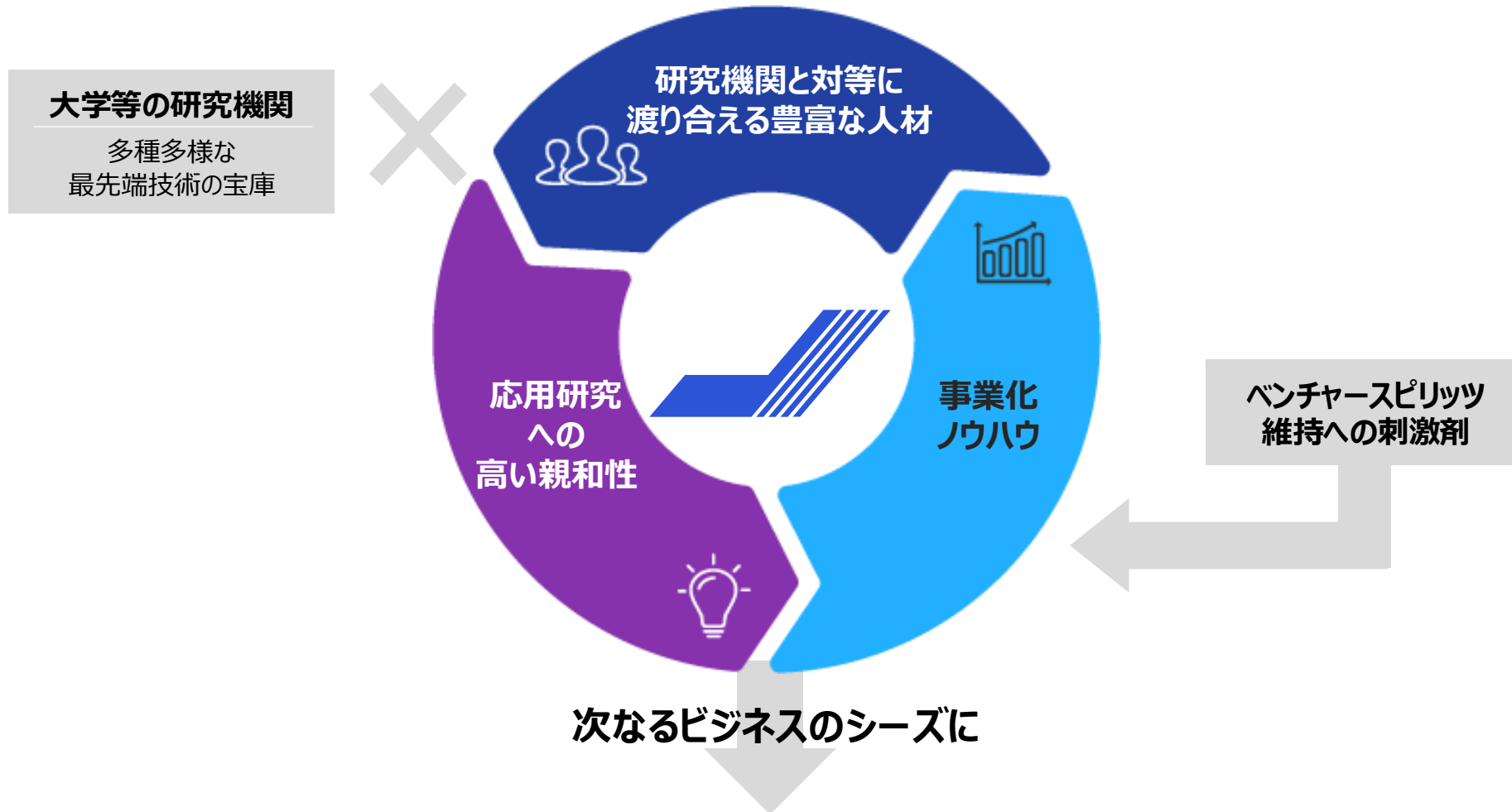
1. 表面精度の仕様として「傾斜角誤差0.15 $\mu\text{rad rms}$ ※1 以下または形状誤差10 nm PV※1 以下」
2. 表面粗さの仕様として「0.2 nm rms ※2 以下」
3. 外観の仕様として「傷の幅が10 μm 以下」
4. 表面性状の仕様として「加工変質層がなきこと」

※1 $\mu\text{rad rms}$ と nm PV はいずれも表面の凹凸の度合いを表す単位であり、前者は局所的な傾斜角の二乗平均を、後者は一番高いところと一番低いところの高低差を表す

※2 nm rms は表面微小領域における凹凸の度合い単位であり、高低差の二乗平均を表す

産学連携（強み）

- ビジネスアイデアと人材活性化に好影響
- アイデアを実用化できるビジネス感覚を活かし、新規事業へ展開



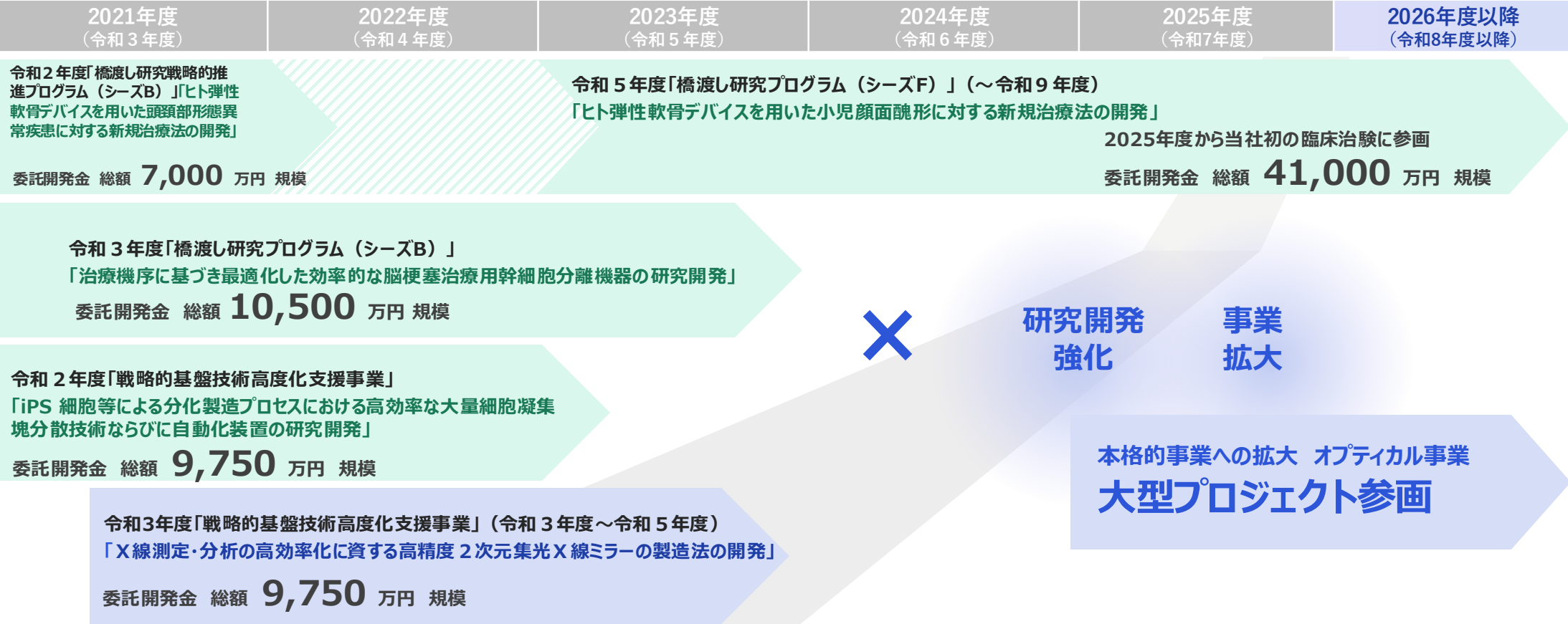
当社のビジネスは柔軟に変化

競争的資金から大型プロジェクトへの展開

最近の受賞歴

経済産業省「2020 年版グローバルニッチトップ企業100 選」に選定
経済産業省、近畿経済産業局「関西ものづくり新撰2021」に当社の継代培養技術「J-iSS」が選定
発明協会「令和5 年度全国発明表彰」の未来創造発明奨励賞に「特許第5070370号」（ナノ集光X線ミラー作製のための超精密測定法の発明）が選定

競争的資金の採択状況

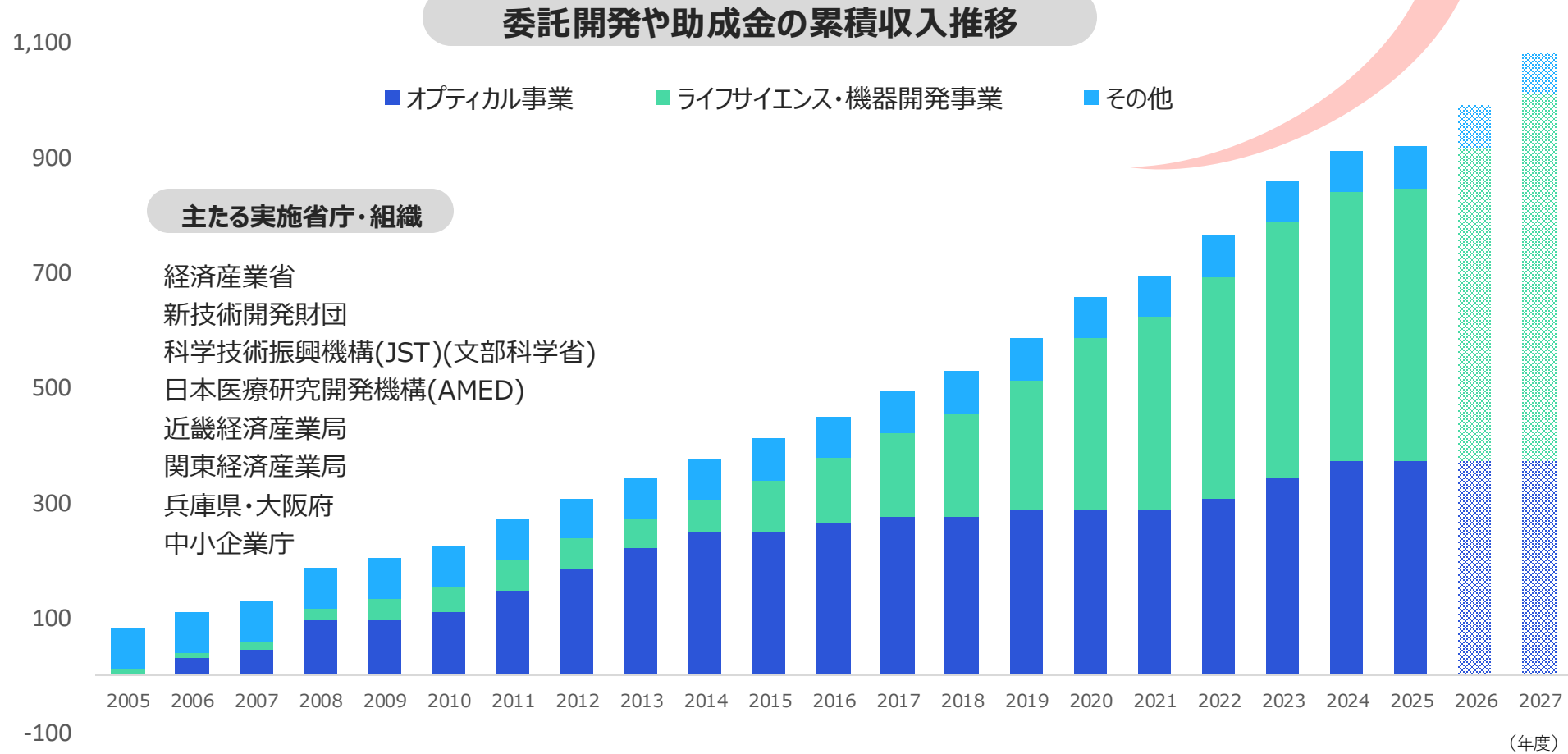


本格的事業への拡大 オプティカル事業
大型プロジェクト参画

評価される技術力

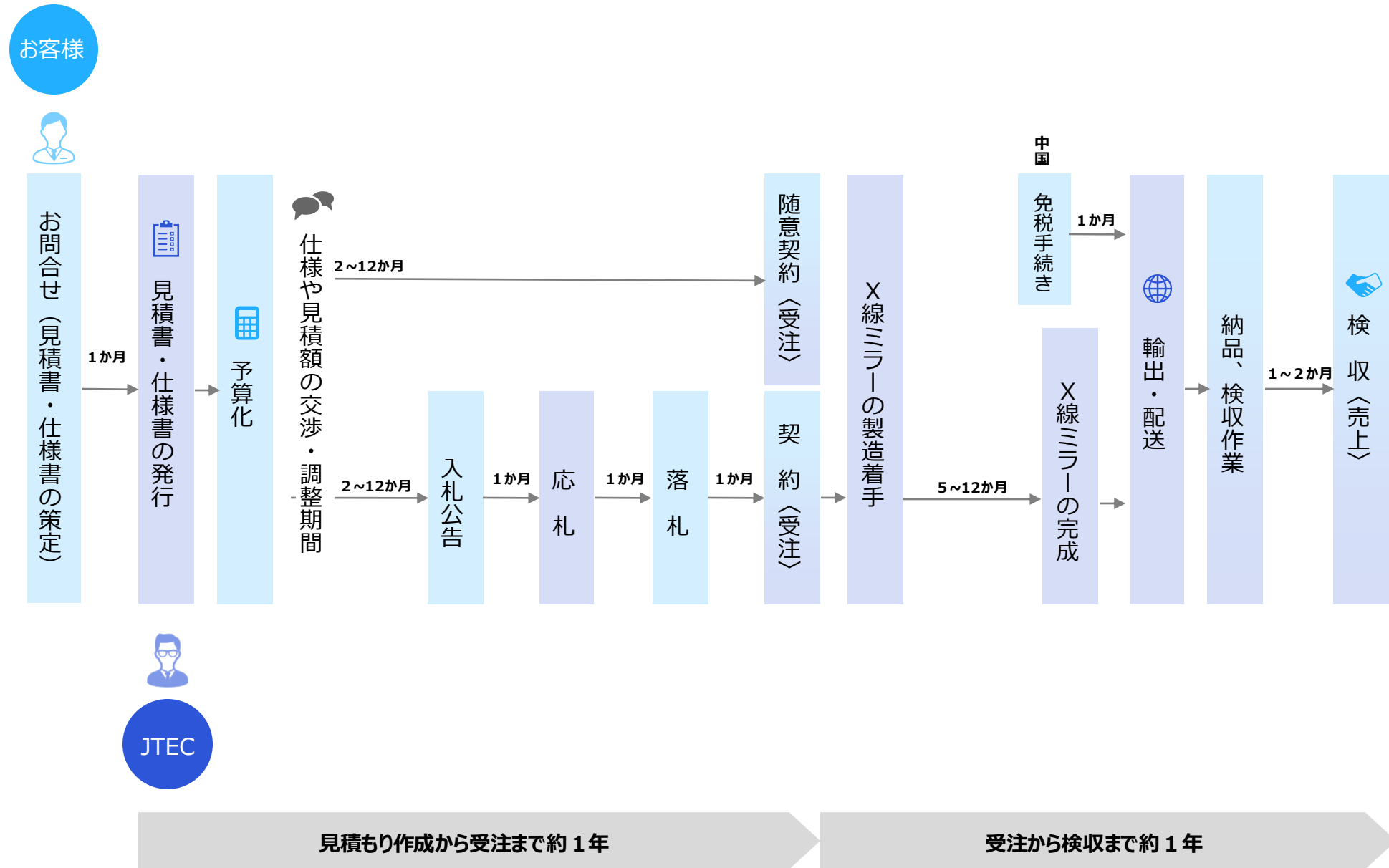
- 公的機関からの委託開発や助成金収入は累計で約 9 億円、評価主体は省庁、地方自治体、JST、AMED

(百万円)



プロジェクト規模全体では約20億円

X線ミラーの検収までの流れ(公的機関から受注した際の検収までのプロセス)



会社概要

社名	株式会社ジェイテックコーポレーション / JTEC CORPORATION		
代表者	代表取締役社長 津村 尚史（つむら たかし）		
本社住所	大阪府茨木市彩都やまがき2-5-38		
創業年月	1993年12月21日		
資本金	847,148千円（2025年6月末時点：連結）		
役員構成	代表取締役社長	津村 尚史	
	取締役 営業部長	金岡 政彦	
	取締役 管理部長	日谷 哲也	
	取締役	辻岡 正憲	
	社外取締役	川崎 望	
	社外取締役	松見 芳男	
	社外取締役	長谷川 功宏	
	常勤監査役	綾部 剛	
	社外監査役／公認会計士	梅田 浩章	
社外監査役／弁護士	片岡 牧		
			
代表取締役社長 津村 尚史			
事業内容	光学事業：放射光用高精度形状ミラーの設計・製作及び販売 ライフサイエンス・機器開発事業：医療/バイオ向け各種自動化システムの開発設計・製作及び販売		
売上高	1,925,592千円（2025年6月期：連結）		
従業員数	75名（2025年6月末時点：連結）		
拠点	当社	本社/開発センター：大阪府茨木市 細胞培養センター：大阪府吹田市（大阪大学内） 栃木生産技術センター：栃木県那須塩原市	
	子会社	電子科学株式会社：東京都武蔵野市	
総資産	3,688,131千円（2025年6月末時点：連結）		



本資料は、株式会社ジェイテックコーポレーションの業界動向及び事業内容について、株式会社ジェイテックコーポレーションによる現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。

これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。
既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性等の要因が、
将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性があります。

株式会社ジェイテックコーポレーションの実際の将来における事業内容や業績等は、
本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。

本資料における将来展望に関する表明は、2026年2月13日現在において利用可能な情報に基づいて株式会社ジェイテックコーポレーションによりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映したものではございません。